会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（二本松自治会）
2　日時	平成 30 年 7 月 14 日（土）18：30～19：30
3　場所	二本松自治会館
4　出席者	（資源循環課）原田副主査、小田副主査 （環境事業センター）林所長補佐、和田主事 （二本松自治会）参加人数：22 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●有料化において費用負担に対する不公平感の解消とはどういうことか、現在、市に対して私たちは何らかの費用を負担しているのか？ →現在は、ごみを多く出す方も減量している方も一律に市民の皆さまから税金で負担をしてもらっているが、有料化を導入した場合、袋の大きさやごみの量に応じて手数料をいただくこととなるため、ごみの減量に努めている方が報われる仕組みとなる。 ●県内で有料化を導入している自治体よりも、より早期に有料化を実施した自治体を参考にしたほうがよいのではないか？ →始めた時期は県外の方が早いが、県内で有料化を導入している自治体は、先に導入した自治体の事例を取り入れながら検討を進めた。県内の４市はあくまでも参考として紹介しているが、先進事例を取り入れながら本市として最も良い方法をとりたいと考えている。 ●市民が増加しているのになぜ税収が伸びないのか？ →平成 32 年度まではわずかながら市民の数は増加するが、それ以降は減少する予測となっているため税収の増加は見込めない。 ●小出地区は不法投棄が多発している。有料化を導入した場合、山中に捨てるなど不法投棄が多発してしまうのではないか？ →紹介している対策事例の実施だけでなく、他の方法も検討している。 ●戸別収集を実施するのは大変ではないか？ →現在の人員と車両では不足しているため共に増加する必要がある。なお、有料化で得られる収入より戸別収集にかかる費用の方が多くかかるため鎌倉市と逗子市は、戸別収集を導入しないこととしたが、本市も実施の有無は十分に検討したい。 ●市民にどうしてほしいのかという最終目標が分からない。 →要約すると、ごみ処理について課題がありごみをなんとか減らしたい。有効な方法

	として有料化と戸別収集があるが、それを実施するには経費がかかり、市民の皆さまにも負担をしてもらうこととなるため、その方針を決定するために皆さまから意見をいただきたいというのが意見交換会の主旨である。 ●ごみ処理経費が平成 28 年度に増加した理由は、施設の建設改良費であってこの表を示してごみ処理量を減らしてほしいということが分からない。 →ごみ処理量が減少すれば、経常的に係る経費も減少するし、建て替えや修繕を行う際、ごみ処理量が減少すればそれに応じた小さな施設ですむ。また、最終処分場が使用できなくなった後の焼却灰の市外での処理、資源化を要する量の縮減にも影響するため、ごみ処理量の縮減は有効と考える。 ●藤沢市や大和市は赤字なのに戸別収集を茅ヶ崎市はするのか？ →職員が現場を実際に調査し経費を算出しているので、それを踏まえて、実施の有無を十分検討したい。 ●戸別収集を実施した場合、ごみはどこに出せばよいのか？ →他市の事例では、公道と私有地の境界ぎりぎりの私有地側にごみを出している。私有地が長く公道から奥まっている場合は、境界のそばの私有地までごみ出しをしてもらっている。 ●戸別収集については、何時頃に回収するかを説明しておかないとカラス等にいたずらされてしまう。ポリバケツなどを用いてカラス対策をする必要があると思う。 →藤沢市では実際にポリバケツなどでカラス対策を実施している。 ●有料化を導入した場合、古紙や大型ごみなどすべてのものを戸別収集とすることを考えているのか？ →藤沢市では、燃やせるごみと燃やせないごみ、資源物の一部を戸別収集の対象としている。また、有料化の対象としては、燃やせるごみと燃やせないごみは有料とし資源物は無料としているが、資源物を適切に分別すれば無料で出せるため、ごみの減量化に繋がることとなる。 ●戸別収集は嬉しい。 ●燃やせるごみの中に再生できる紙類があるというデータを紹介してもらったが全てのごみ袋を開封して調査したのか？ →決まったルールに従って統計的に算定する方法があり、それを用いて算定した。 以上